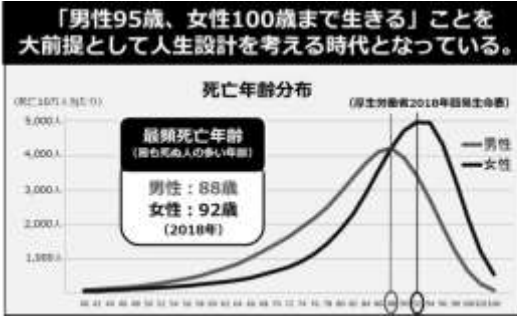


【社会人材化プログラムの目的と目指す姿】～「長期化する仕事人生」を完走できる『社会人材』になる。

「誰もが向き合わなくてはならない課題」の出現

人生の長期化



- 最頻死亡年齢は、ざっくり平均値を示す平均寿命（男性81.25歳／女性87.32歳）よりも随分高く、男性の1位 88歳／2位 87歳／3位 89歳、女性1位 92歳／2位 93歳／3位 94歳となっている。
- 現50代が90代になる40年後は、「男性1位 95歳、女性1位 100歳」になっているかもしれない。

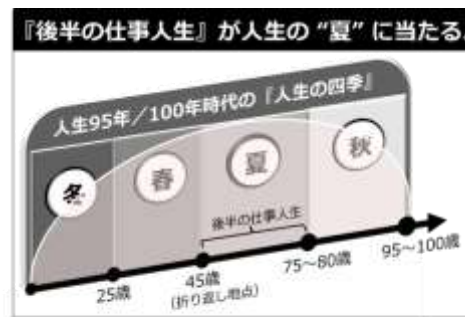
仕事人生の長期化



- 2017年 日本老年学会・日本老年医学会が「高齢者の定義を75歳以上に」と提言しているが、団塊世代が80代になる2030年に80歳以上は1,500万人を超え、80歳以上に再々定義される勢い。「75歳、80歳まで現役で活躍する社会」へと確実に向かっている。
- しかしコロナ後の時代を見通し、「いかにして長期化する仕事人生を完走していくか」という自らの課題に向き合っている人は極めて少数である。

途中座礁せず、「長期化する仕事人生」を完走

新たな人生の四季

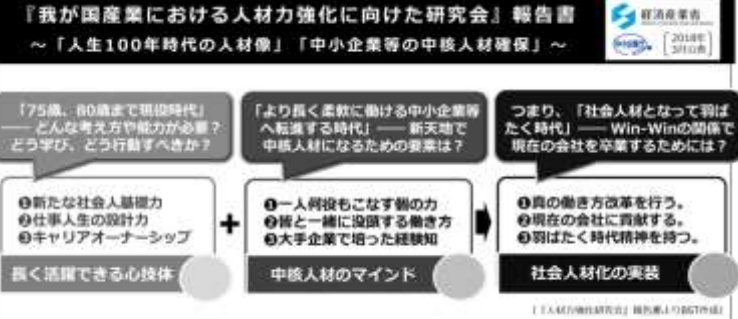


- 「人生95年／100年時代」「75歳、80歳まで現役で活躍する社会」では、後半の仕事人生が“夏”に当たる。「45歳以降の仕事人生をどうやって充実させるか」が人生攻略の最重要ポイントとなる。
- その有効な方法が、「一つの会社を勤め上げる人材から、広く社会で活躍する人材になること」である。



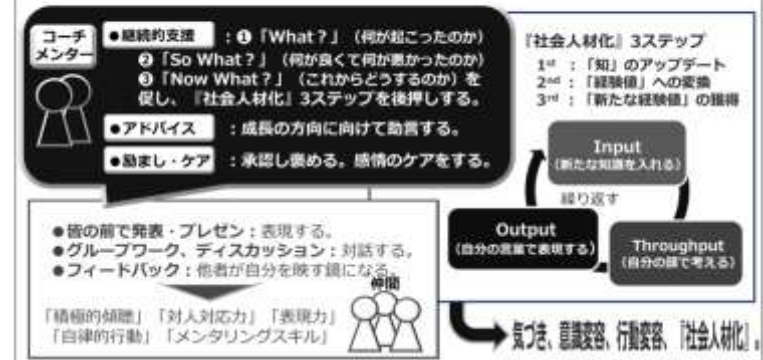
- 『社会人材化プログラム』(知のアップデート、経験値への変換、新たな経験知の獲得の3ステップ)により、「会社人材」から『社会人材』になり、45歳以降の仕事人生の軸足を「他者支援と充実」に転換すれば、中小企業や成長分野に行っても中核人材となれる。
- こうして『社会人材』になれば、「長期化する仕事人生」と「流動化／多様化するコロナ後の新しい時代」に対して、自信と誇りを持って向き合っていくことができる。

そして、『社会人材化プロジェクト』が必要に



- 「75歳、80歳まで現役で活躍できる心技体」と「中小企業や成長分野で中核人材になるマインド」を持つことは、つまり「社会人材化」へのプロセスである。

『社会人材化』に取り組むには、「コーチやメンターの継続的支援、アドバイス・励まし」と「仲間の存在」が必要不可欠である。



- 1st ステップで、「新たな社会人基礎力」(転進するスピリット、コロナ後に通用する時代観・人生観・仕事観)を身に付ける。2nd ステップで、これまでの経験を意味付けして「経験値」(広く外で使える能力やスキル)に変換する。3rd ステップで、「新たな役割」に開発的にチャレンジする。そして、1年以内に『社会人材』になることを目指す。